ISSN 1880-585X

sendai-city chronicles communication paper.

せんだい 市史通信

第34号
仙台市博物館
市史編さん室

アエル仙台から見たかんぽ生命保険仙台サービスセンターと宮城県庁

仙台簡易保険支局を写した戦前の絵葉書(個人蔵)　左端に宮城県庁の屋根が見える

せんだい 今 昔
森に浮かぶ白亜のビル 仙台簡易保険支局

昭和11年(1936)、北一番丁(青葉区上杉)に仙台簡易保険支局のビルが完成しました。鉄筋コンクリート4階建てで、直線を基調としたシンプルなデザインながらも、幅が100メートルにも及ぶ堂々たる姿は、仙台で最初の近代的な大規模建築物として注目を浴びました。そのため、戦前に出版された仙台の地図や、今でいえば観光ガイドブックのような冊子でしばしば取り上げられ、また絵葉書の題材にも使われています。

昭和20年7月の仙台空襲を免れたこのビルが、戦後いち早くアメリカ軍により接収され、宮城県に進駐した占領軍の司令部といった中枢機関が置かれたことも、当時としては最新の重要な建物であったことを物語っています。そんな経歴を持つ簡易保険支局の建物は、今もかんぽ生命保険仙台サービスセンターとして現役で働いています。

最近、簡易保険支局を写した戦前の絵葉書が見つかりました。簡易保険支局の写真はいくつも残っているのですが、その多くは北一番丁から正面入り口を含めてのアングルで撮られています。しかし、この絵葉書はそれとはまったく違ったアングルで、おそらくは東南方向の仙台駅付近から撮られたものと思われる遠望写真です。

この写真を見て何よりも驚かされるのは、簡易保険支局の建物が、まるで森の中のリゾートホテルでもあるかのように、鬱蒼とした木々に囲まれていることです。簡易保険支局が建つ北一番丁周辺は江戸時代には武家屋敷街でした。大きな屋敷の中に植えられた木々の緑が、「杜の都」といわれた近代における仙台の風景を作っていたことはよく知られています。この写真は、戦後急速に失われていった「杜の都」の原風景を私たちに伝えてくれています。

ビルの周囲にあった樹木が生い茂る「お屋敷」が消え去り、いくつもの高層ビルやマンションに囲まれ、この建物は今ではすっかり目立たなくなってしまいました。今、北一番丁を行き来する人の多くは、この4階建てのビルが仙台を代表する自慢の名所だったことなど気づいていないでしょう。

古い建物が次々に壊され、戦前の記憶を持つ建物もわずかになった現在の仙台。このビルは、戦争や開発の波をかいくぐって残された数少ない歴史の証人と言えるでしょう。

アメリカ軍に接収されたころの仙台簡易保険支局(仙台市博物館蔵)

昭和前期の絵葉書に描かれた仙台簡易保険支局の周辺(仙台市博物館蔵)

積む！ 運ぶ！ つなぐ！

はたらくレール

「レール」といってすぐに思い浮かぶのは、人やものを大量に運ぶ電車や新幹線。
しかし、かつてはもっとあちこちに簡易なレールが敷かれ、それぞれの作業現場で活躍していました。
道路の整備や自動車の発達によって今では大部分が姿を消してしまった、
身近にあったレールの物語を紹介します。

若林区荒町の佐藤麹味噌醤油店で今も使われている運搬用のトロッコ

1 道路と蔵をつなぐ～町屋のトロッコ

城下町に建ち並ぶ町屋が、間口が狭く奥行きが長い、いわゆる「ウナギの寝床」のような敷地であることは全国共通です。仙台の城下町では、間口6間（約11メートル）×奥行25間（約45メートル）が町屋の基本サイズ。この細長い敷地の道路に面したところに店があり、奥に住居や蔵、作業場があるのが普通でした。

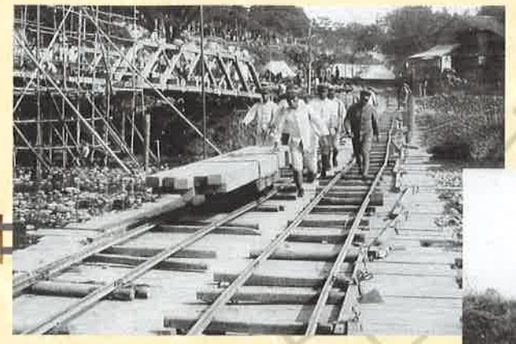
近代になってレールの上を荷車が走るトロッコが普及すると、店と奥にある蔵や作業場を結ぶトロッコが全国あちこちの町家で使われるようになります。仙台でも町屋にある老舗の麹店では、昭和30年代に作られたレールの上を走るトロッコが今も現役で働いています。

2 燃料を積み出せ！～亜炭鉱山のトロッコ

昭和30年代まで仙台市内の暖房や風呂焚きを支えた燃料は亜炭でした。青葉山から八木山にかけての丘陵一帯には、小規模な亜炭鉱山があちこちに坑道を開いていました。その中でも代表的な鉱山だった金剛沢鉱山（太白区八木山南北隣）では、大正時代からトロッコを用いて坑口から山麓の西多賀へ亜炭を運んでいました。昭和18年（1943）にトロッコでの搬出が廃止され、その後、鉱山もなくなってしまいましたが、軌道の跡は今も団地の中に道路として生き残っています。

金剛沢鉱山における昭和前期の亜炭搬出用トロッコ軌道（個人蔵）

※国土地理院発行の地形図『仙台西南部』（平成20年）に加筆
金剛沢鉱山のトロッコ軌道跡



昭和2年（1927）に行われた中の瀬橋架設工事で橋材運搬のため敷かれたレール（個人蔵）

3 資材を運ぶ～工事現場の軽便鉄道

工事現場と言えば、ダンプカーなどが資材運びの主役。しかし、そんな工事車両が普及するのは第二次世界大戦後のこと。それ以前は、工事現場に簡易に敷設された鉄道を利用して資材や土砂を運んでいたのです。そのため、各地の地方建設局は、軌道幅762ミリメートルすなわち軽便鉄道の規格を持つ資材運搬用蒸気機関車（SL）を何両も保有していました。

小さなSLが一所懸命に運んだ土砂などが大きな堤防となって、今も人々の生活を守っているのです。

昭和25年（1950）に藤塚周辺の堤防工事で用いられた小型のSL（瀬古龍雄氏撮影）

4 木材運びだけじゃない～森林鉄道

伐採した木材を山から運び出すには、馬で運搬したり、川を利用して流す手法などが昔から行われていました。近代になって森林鉄道が登場すると、木材の運搬能力は飛躍的に高まります。

昭和10年代から30年代にかけて、定義（青葉区大倉）や奥新川（太白区秋保町馬場・青葉区新川）にも森林鉄道が敷設されていました。定義森林鉄道の場合、沿線に戦後の開拓集落である十里平があるため、人々は自前のトロッコを使って必要な荷物を運搬するだけでなく、軌道敷を生活道路代わりにするなど、生活に密着したものとなっていました。

昭和27年（1952）以降、定義森林鉄道で使われるようになった機関車（個人蔵）

昭和27年（1952）ころの定義森林鉄道（個人蔵）

5 馬が曳いた人ともの～馬車鉄道

現在の仙台市域には馬を動力とした2つの馬車鉄道路線がありました。1つは、蒲生（宮城野区蒲生）と東八番丁（宮城野区榴岡）を結び、明治15年（1882）に営業を開始した宮城木道社。これは全国で2番目に早く開業した馬車鉄道で、営業成績も悪くありませんでしたが、日本鉄道東北線（現在の東北本線）の開通直後に廃止されてしまいました。

もう一つは、石材を運ぶために秋保と長町を結んだ秋保石材軌道で、開業は今から100年前の大正3年（1914）。石の運搬だけでなく、秋保温泉へのアクセス鉄道としての役割も果たすようになり、その後軌道を拡幅して電化され、大正14年には電車が走るようになりました。

長町にあった秋保石材軌道の石置き場
（『秋保石材軌道株式会社』宮城県図書館蔵）

ピックアップ 仙台市史

資料編 伊達政宗文書（全4巻）

A5判 別冊写真集付 本体価格3,810円（税別）
※伊達政宗文書１は完売しました

仙台藩初代藩主伊達政宗。昭和62年（1987）に放映されたNHKの大河ドラマでその生涯が知られ、一躍ビッグネームとなりました。今や、テレビ・雑誌・ゲームなど様々なメディアにたびたび登場する存在です。

独特の美意識を持った野心あふれる武将、というイメージの強い政宗ですが、「筆まめ」という性格も持ち合わせていました。『資料編 伊達政宗文書』全4巻は政宗自筆の手紙をはじめ、証文なども合わせ総数4000点余を年代順に収録しています。そのうち1530点については、別冊付録に写真を掲載しました。

各巻の内容

『伊達政宗文書1』：
天正12年以前から天正19年まで（政宗25歳まで）
『伊達政宗文書2』：
文禄元年から元和元年まで（政宗26歳～49歳）
『伊達政宗文書3』：
元和2年から寛永4年まで（政宗50歳～61歳）
『伊達政宗文書4』：
寛永5年から寛永13年まで（政宗62歳～70歳）
既刊の補遺

当時のほかの大名に比べ自筆で手紙を書くことが格段に多かった政宗。右筆（ゆうひつ）に書かせた手紙であっても、追伸を自筆で書き足し、そのことで相手の信用を勝ち取るなど、外交手段としても上手に使っています。

政宗は花押（かおう）（サイン）や書体を時期によって変えており、手紙の内容だけでなく、それらも年代推定の手掛かりになります。第1巻には、そのような政宗の花押の変遷に関する論考を巻末に掲載しています。また、第2巻には伊達政宗の子女一覧、第3巻には政宗の家臣一覧、第4巻には伊達政宗年表を掲載しており、政宗の文書を読み解く手助けとしています。

なお、全4巻が刊行された後も新たな政宗文書が多く"発見"されていることから、平成19年（2007）9月刊行の『市史せんだい　Vol.17』から「伊達政宗文書・補遺」として、新出の資料の紹介を始めました。その数は、最新刊『市史せんだい』Vol.24までに179点。併せて本冊では写真の掲載ができなかった36点を、写真補遺として紹介しています。

戦・外交・藩政・家臣・家族……。その時その場の政宗の姿が、文面、あるいは筆跡から見えてくるかもしれません。

最新刊好評発売中

市史編さん事業の機関誌『市史せんだい』は、郷土の身近な話題を取り上げた特集記事をはじめ、多彩な論文や史料紹介など内容充実、見どころ満載です。

『市史せんだい』Vol.24

A5判 128頁
500円（税込）

明治初期における視覚障害者の生業獲得のための取り組み、戦前の国内旅行ブームと郷土玩具との関わり、大正期の陸軍特別大演習の地域への影響など、仙台の近代史を新たな切り口でとらえた論考を複数収録。また、在郷屋敷についての分析、さらに史料紹介「入生田家之故実」や「伊達政宗文書・補遺（八）」を収録しています。

『市史せんだい』がよりお求めやすくなりました！

発売中の既刊が500円（税込）に大きくプライスダウン！均一価格となりました。
この機会にぜひ、お手にとってご覧下さい。

※Vol. 1～8・21は完売しました　※お求め先／仙台市博物館ミュージアムショップ

仙台の歴史を掘り下げる
「仙台市史」好評発売中！

◎次回刊行予定
年表・索引

通史編／2,858円（税別）
資料編／3,810円（税別）
特別編／5,714円（税別）
※板碑のみ4,762円（税別）
１冊ずつお求めになれます

通史編
1原始 ※改訂版とセット販売になります　2古代中世　3近世1　4近世2
5近世3　6近代1　7近代2　8現代1　9現代2

特別編
1自然　2考古資料※完売しました　3美術工芸　4市民生活　5板碑
6民俗　7城館　8慶長遣欧使節　9地域誌

資料編
1古代中世　2近世1藩政　3近世2城下町　4近世3村落　5近代現代1交通建設
6近代現代2産業経済　7近代現代3社会生活　8近代現代4政治・行政・財政
9仙台藩の文学芸能　10伊達政宗文書1※完売しました　11伊達政宗文書2
12伊達政宗文書3　13伊達政宗文書4

県内主要書店、仙台市博物館でお求めになれます。
配送をご希望の方は、電話・FAXで㈱宮城県教科書供給所へお申込みください。

発　売　元／㈱宮城県教科書供給所
〒983-0034 仙台市宮城野区扇町一丁目6-3
TEL 022-235-7181　FAX 022-235-7183
お問合せ先／仙台市博物館市史編さん室
〒980-0862 仙台市青葉区川内26
TEL 022-225-3074

せんだい 市史通信 第34号
発行年月日／平成26年10月10日
編集・発行／仙台市博物館市史編さん室
〒980-0862　仙台市青葉区川内26
TEL／022-225-3074
URL http://www.city.sendai.jp/kyouiku/museum

このリーフレットはリサイクルできます。「雑がみ」へ分別しましょう。